

鉄道事業班夏季特別合宿を開催しました

2011年9月

社会交通工学科4年 鉄道事業班代表 北村 幸太郎

鉄道事業班合宿もといJ i社員旅行？（って古いサークルメンバーは言うんだらうな）を茨城県ひたちなか市で開催いたしました。私を含め8人+途中OB1人が参加で、3泊4日で行って来ました。ひたちなかを選んだのは、まあ、やっぱり私のインターン先だったってのはもちろんのこと、被災地の一部でもあるので、応援地域振興を目的として選定しました。宿泊先も地元の旅館です。ひたちなか海浜鉄道の吉田社長にご紹介頂きました。

今回の合宿での活動内容としては、

- ・活動方針、ガイドライン配布、解説
- ・いくつかのグループに分かれての文化祭出展に向けての準備
（ダイヤ作成、ダイヤ入力作業、時刻表作成、配線改良、配線図作成など）
- ・ライトキャスト（※）向けビデオによる鉄道講習
（※いわゆる鉄道趣味等とは無縁で、知識量は少ないけど鉄道事業班に入ったキャストのこと。一般人という、差別的な感じがあるので、ここでは「ライトキャスト」とした。）
- ・ひたちなか海浜鉄道車庫見学（1日目）
- ・ひたちなか海浜鉄道取締役の北見氏による特別講演会（急遽開催・2日目）

さらにご存じのとおり鉄道事業班は、その活動のほとんどが事務作業。部屋に籠りきりというのも貧しい気もするので…

アクティビティ

- ・付近の散歩
- ・花火
- ・海水浴（希望者のみ。北見氏によれば放射能的には大丈夫とのこと）

をやるなどして気分転換を図りながら作業を行いました。

まず初日。上野駅集合。フレッシュひたちで勝田まで行き、ひたちなか海浜鉄道で那珂湊まで乗車。那珂湊駅舎内の本社のみなさんにご挨拶・手土産を渡して、車庫見学・案内をしていただきました。



この会社、超珍しい国鉄型気動車の宝庫なんですね。私はあまり車両には詳しくないのだけど、少し紹介すると、北海道出身のスカ色の回転窓付き車両（この形式では唯一の残存車両らしい）や、国鉄型のオレンジとクリーム
の車両、国鉄急行型、日本初のステンレス気動車（台車は外されていて、展示室になっている）などがあり、ス
テンレスの車両以外はすべて今でも現役で走っている。ただし、非冷房車は基本的に冬だけとなっている。
うちの班にも古い車両大好き人間がいるということもあって企画しました。たぶん満足頂けたんじゃないでしょ
うか。



その後、那珂湊駅レンタサイクル（100円）を利用して近くのおさかな市場まで行って昼食にしました。
海浜鉄道側も1度に大人数で自転車を貸し出すことは滅多になかったためか、普段使わない車両も持ち出し、車
両トラブルが多発！修理に修理を重ね、なんとか乗ることができました。おさかな市場について、お寿司屋さん
に入りました。ここでも地域振興を兼ねて入っているので、みなさんたくさん食べましょうね。ということで私
は5000円弱使ってしまいました。



やはり値段だけあって、ネタの質が全然違うんですよ。種類も豊富だし。チェーン店のとは違ってネタが生き生きしていましたよ。

食事の後はちょっと時間があつたので駅集合で自由行動に。



私は先に駅に戻って北見さんにご挨拶に行きました。

去年のインターン中、駅務実習のときにお客がなかなか来なくて、正直暇だったんですね。そんなとき北見さんが資料を持ってきてはよく国鉄配線についての話をしてくれました。北見さんは自称・廃線跡・配線マニアということで、鉄道話をしだすと止まらない方なんです（笑）。

そこで、もし合宿期間中にお時間があれば、少しそういったインターン中にお聞かせいただいた配線の話やその他ためになるお話を鉄道事業班のみなさんにしていただけないかとお願いしてみました。ちょっと考えて、「じゃあ明日お昼から1時間だけ話そうか」ということになり、このとき北見さんの特別講演会が決まりました。即席企画だったわけですね。吉江くんがこの手の話、好きだもんね。

みんなが集合して那珂湊から阿字ヶ浦の宿へ向かいました。ほぼ海の前にある山形屋という旅館です。やはり風評被害で去年比9割減の入り（女将談）ということもあって、部屋どこでも好きなところでいいですよ。といわれ建物に案内されました。というわけで、作業用が一番海側の部屋と、寝る用の部屋として2部屋使わせて頂きました。ここは風がよく通るところで、着いてまずみんなで気持ちいい風を浴びながら昼寝しました。

1時間くらいして、私が活動方針・訓示をして作業開始。

私の率いるAグループではライトキャスト向け教習を始めました。

このライトキャストの方、実は事業班辞めようかなと言っていた堂崎くんでした。多分私の教え方・ペースがきつ過ぎたのかもしれないね。

彼は鉄道サークルでやっているようなことや、その関係の人たちとは一切無縁だった。なぜ鉄道事業班に入ることにしたのかまず聞いてみたところ、旅行が好きで愛好会に入り、文化祭の班も正直どこでもよかったという。しかし、入っても先輩たちからは何も活動の説明や指示もなく、ただ何もせず時間過ぎていくだけだった。そんなとき、唯一ちゃんと熱意をもって班の活動内容の説明をしたのが鉄道事業班、つまり私だけだったらしい。その熱意ある説明により鉄道事業班に入ることを決めたと言ってくれた。まあ、嬉しい話ではある。逆に他の班に対しては残念な感じがした。入ったら終わりじゃなくて、やっぱりもうちょっと心から歓迎する姿勢を示すことが各班の代表者の責務だと思う。他がやってなかったからこそうちに來てくれたという結果は喜ばしいが、それをやっていたのが私だけというのには悲しいものがある。

ともあれ、もっと緩く活動に入れないか、もちろん1人も辞めてほしくなかったというのはあったが、ただきつかったというだけで終わらせることはしたくない。

そこで、鉄道と無縁の普通の人たちの中で過ごしていたことのほうが多かったという鈴木さんに、今回のライトキャスト向け教習をお願いした。私では、普通の人々の感覚がわからないことが多いからだ。昭和鉄道に社会交通、鉄道と縁のある人との付き合いしかないだろうって環境にずっといたから仕方ないですね。

鈴木さんの緩さ、入り方はやっぱりよかった。TV番組のDVDから始まり、ひたちなかのダイヤ引きなどをして、3日で彼をAグループの担当線区の作業に戻した。しかも「まあ、教えたことの6割も覚えていりゃいいよ」という声掛け。私に言わせればどれも重要だから覚えておいてというところだが、ライトキャストさんにはこの緩さがいいのだろう。ありがとうございました。

彼はこの間、吉江さんの作業なども興味を持って見に行ったり、話を聞いてみたりしていましたね。

逆にどう見てもライトじゃない瀧崎さんにはビシバシつつこみを入れましたよ～私は（笑）。

2日目、午前中は作業をして、那珂湊で昼食をとり、13時半から

「ひたちなか海浜鉄道 取締役 危機管理室長 北見 延久氏による特別講演会」を開催いたしました。ご丁寧にお茶も頂きました。お話の内容としては、

- ・車両の話
- ・ひたちなか海浜鉄道の概要・経緯・歴史など
- ・配線計画の例1. JR岩沼駅
- ・配線計画の例2. JR友部駅
- ・配線図に見る鉄道の魅力
- ・鉄道が消えると街も消える
- ・1番手にやることの重要性。他者の真似はするな

特に「配線図に見る鉄道の魅力」について北見さんは、「なぜこの線路はこうなっているのかを分析するのが楽しい、そこから鉄道や街の経緯が見えてくる。」と語る。また、北見さんは学生時代、常磐線で3時間かけて神保町まで通っていた。「毎日が旅行気分だった。窓から線路を眺めているだけで楽しかった（笑）」という。

さらに、まじめな話を紹介すると、

「鉄道を廃線にしてバス転換するとたちまち利用者は激減する。駅という存在がなくなり、街が地図から消えてしまうも同然だからだ。そうになってしまうと人は来なくなる。すると結局バスも廃止になり、交通手段を失った街は本当に消えてしまう。」と警鐘を鳴らす。

「チャンスは運次第とか、人によって来るものではない。誰にでも等しく来るものだ。問題はそれを当人たちが掴もうとするかどうかなんだ。だから我々はまずはどんな企画提案を持ち込まれても、まずは話だけでも聞いてみることから始める。メイド会社によるとメイドトレイン企画は大手私鉄では話すら聞いてもらえなかった。でもうちの会社ではやった。1番手にね。そのおかげでこの会社は協力的という印象を与え、メディア露出が増えて宣伝効果も出た。」

など、多くのためになる、身に染みるお話をいただきました。

北見さんは前述のとおり話すと止まらない方ということもあり、1時間の予定が3時間の大講演となりました。ありがとうございました。

講演会の後、記念撮影をしました。写真がその時のものです。



宿に戻って再び作業。この日は深夜からひたちなかの最終に乗ってOBの今田先輩が参加されました。

3日目、この日も1日中作業。夕方に1年生2人と散歩に行きました。そのとき夜遊ぶ花火を買い、インターンの時に那珂湊駅長に連れていってもらった「酒列磯前神社」(さけつらいそさきじんじゃ)に2人を連れて行きました。ここは結構印象に残っていた場所で、参道が「木のトンネル」なんです。なんかジブリ的な感じの。鈴木くんも「木がよけてる〜」だって(笑)



散歩中ビーチに立っていたら…「なんか揺れてるような?ま、いっか」

後で聞いた話、そのとき茨城県沖で震度4だったそうです。砂の上だから揺れが吸収されていたのでしょうか。宿に戻って作業。吉江くんはダイヤ入力ミスの修正に苦戦(3日目←おい!)。瀧崎くんは配線図を書き、堂崎くんは鈴木くんに教えられながら担当線区のダイヤを引いていました。夜は、量は少なかったけど花火で盛り上がりました。風が強くてなかなか火を付けるのに苦労しましたよ。



最終日。午前中作業して、昼から海に入ってきました! やっぱ海は気持ちいい! ずっと入っていてもよかったなー。私と1年生2人で入ってきました。



そのあと宿にお金を払ってチェックアウト。この合宿により13万円もの宿泊費がかかりました。地域振興としては十分なものとなったのではないのでしょうか。ちなみにひたちなかの自動車賃は全員全行程で14,420円でした。こちらも貢献度としてはいいのではないかと思います。

よく街中では募金活動を見かけますし、C5(千葉学鉄連)も募金活動をやっていますが、私の考え方は、ただお金を送るだけでは支援にならないし、地域が「活かない」と思うのです。やはり風評などはありますが、しょせんは風評です。募金だけしてあとは知らん顔ではなく、その地域へ行って消費することが本当の復興支援だと

思うのです。だから鉄道事業班では活動しながらに地域が「生きる」形での復興支援をするために今回の合宿を企画しました。

みなさん楽しめたでしょうか？満足してもらえたと思われるつばやきも見ることができたので私としてはまあまあ安心です。私は楽しかったです。むしろアクティビティ系のほうが（笑）

また来年もやりたいです。



写真：鈴木 航